

北海道において死亡野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5亜型)を検出 (今シーズン初！野鳥国内1例目)

令和7年10月15日に北海道苫小牧市で回収された死亡野鳥（オオタカ）1羽において、同年10月17日に国立環境研究所で遺伝子検査を実施したところ、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5亜型）が検出されました。本事例は、今シーズンで野鳥における国内1例目の確認事例となります。

【概要】

- ・回収日：令和7年10月15日
- ・回収場所：北海道苫小牧市
- ・検体の種類・鳥種：死亡野鳥・オオタカ

皆様におかれましては、飼養衛生管理基準遵守の徹底、特に下記の点について重点的に確認し、継続的な実行に努めてください。

1. 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等
2. 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用
3. 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等
4. 家きん舎に立ち入る者の手指消毒等
5. 家きん舎ごとの専用の靴の設置及び使用
6. 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕
7. ねずみ及び害虫の駆除
8. 農場周辺の消石灰散布等消毒の徹底

家きんに異状が認められた場合は直ちに壱岐家畜保健衛生所へ連絡してください。

壱岐家畜保健衛生所 担当：鉾林・殿川
TEL：0920-45-3031